

令和5年度 第3回半田市市民チャレンジ協働プラン推進委員会

開催日時	令和5年8月7日 14時～16時30分
開催場所	市民交流センター ミーティングルーム A/B
次 第	<p>1. 議題</p> <p>(1) 協働事業評価について</p> <p>①「ごんの秋まつり運営業務」：観光課</p> <p>②「ふくし井戸端会議」：地域福祉課</p> <p>③「大学地域連携スポーツ推進事業」スポーツ課</p> <p>④「外国籍市民のための防災事業」市民協働課、防災安全課</p> <p>(2) 協働事業G P（グッドプラクティス）の選定について</p> <p>2. その他</p> <p>(1) 今後のスケジュールについて</p>
出席者 (敬称略)	<p><委員></p> <p>日本福祉大学 特任教授 千頭 聡</p> <p>NPO法人 ぱれっと 副理事長 戸田 愛</p> <p>NPO法人 半田市観光協会 事務局長 榊原 宏</p> <p>ママのサポートリング 伊藤 里香</p> <p>生涯活躍のまちアドバイザー 池田 美恵子</p> <p>一般社団法人SDGs design 代表理事 曾根 香奈子</p> <p>半田市社会福祉協議会 事務局長 小野田 靖</p> <p>元半田市区長連絡協議会 会長 藤牧 実</p> <p><議題関係課></p> <p>観光課：課長 竹内 正</p> <p>地域福祉課：課長 杉江 慎二、主査 清水 太士、主査 吉澤 伸博</p> <p>スポーツ課：課長 加藤 計志、主査 石川 勝也</p> <p>市民協働課：課長 藤井 寿芳</p> <p>防災安全課：防災監 出口 久浩、羽山 尚吾</p>
事務局	市民協働課 課長 藤井寿芳、主幹 竹内雅香子、副主幹 鳥居ひとみ、中川雅仁
要旨録	
<p>1. 議題 (1) 協働事業評価について</p> <p>①「ごんの秋まつり運営業務」：観光課</p>	

事務局	(意見交換に関する補足説明)
観光課	(「ごんの秋まつり運営業務」に関する説明。)
委員長	担当課に質疑や提言など発言をお願いします。
委員	<p>矢勝川の土手を管理できなくなれば、イベント自体が開催できなくなってしまう。岩滑の自治区の方と彼岸花を維持管理している方のお話を聞く機会があり、矢勝川の土手管理について、特に管理を行う担い手確保が喫緊の課題ということでした。</p> <p>地域のボランティアの力に任せるだけではなく、行政が手を差し伸べる必要があると感じます。観光課としてはどのような現状認識を持っていますか。</p>
観光課	<p>彼岸花の植栽が始まった時のようなキーパーソンがおらず、担い手が不足していると認識しています。</p> <p>現在では、観光色が強い彼岸花の植栽ですが、始まりは新美南吉の顕彰を地域の方ができる範囲で行おうという取り組みでした。エリアを広げた結果、止めるに止められず、維持への義務感と負担が大きくなってしまったと思っています。彼岸花の球根は既にたくさん埋まっており、時期が来れば花は咲きますが、開花時期に至るまでの雑草の処理状況により、彼岸花の密集度に影響が出ます。なお、現在は土手の維持管理を有償ボランティアに協力してもらっています。</p> <p>南吉童話の風景を地域の力で守るという本来の趣旨を考えると、観光という枠組みでくっってしまうのは違うと考えています。</p> <p>今後のことについては、岩滑地区の方だけに担っていただくことは難しいと思いますので、南吉に思いのある方を広域から募ることも一つの考え方ですが、すぐに根本解決できる問題ではないと考えています。</p>
委員	観光課が面に立っていますが、市役所内での他課との協働はいかがですか。
観光課	コンテンツが新美南吉なので、ごんの秋まつりの時期にあわせて新美南吉記念館が事業を展開してくれています。
委員	<p>市にとって彼岸花の美観が財産になっているのであれば、その保全に行政がもう少し関与してもいいのではないかと思います。</p> <p>彼岸花の風景が半田への愛着をもたせるように、イベントを開催するための準備や環境整備としても目を向かせる取組を検討する必要があるそうだと感じました。</p>
委員	<p>協働の相手側のごんのふるさとネットワークは、新美南吉のふるさとの風景を守るという視点で、観光課、環境課、都市計画課などとも意見交換をしながら、また、地域の様々な団体と関わりながら活動をしています。</p> <p>彼岸花に関しては、どちらかと言えば民間主導の活動ではありますが、規模が大きくなったこと</p>

	もあり、市に協力を求めながら進めている状況です。現在、半田市側の川縁は彼岸花の球根を植え切ってしまったので、今後は、地域の方が彼岸花を植えること以外で関わることのできる新たな方法を見出していくことが、協働相手として課題と考えているところです。
委員長	新しく関われることとは、風景をもう一度再現していくための取組という視点ですか。
委員	はい、そうです。彼岸花に関してでも、景観全体に関する取組であっても良いと思っています。彼岸花の管理をしているのは実働 2 人で、その 2 人の思いと能力で概ね管理ができており、部外者が簡単には手伝えない状況であることも事実です。管理には有償ボランティアも一部関わっていますが、どこの部分ができなくなると本当に問題なのかを把握しておくことが、問題、課題解決のための整理につながると思います。 民間主導の活動であると認識していますので、これまでも、彼岸花の管理については、ごんの秋まつりに参加する団体はどう関わってもらうかを話し合う機会がありましたが、実動にはつながっていません。
委員長	「ごんの秋まつり運営業務」として、少し広い視点で見たとき、実行委員会の体制や運営などの状況や課題はどうですか。
委員	外国籍市民や観光客の増加に対応できていないのではないのでしょうか。店舗や観光案内など、ある程度外国人にも対応できるようにしておくことも必要ではないかと思います。
委員長	必要な情報の翻訳については、観光課と市民協働課との協働により可能です。
観光課	ごんの秋まつりの運営という点では大きな問題はないと考えています。 期間中の駐車場が不足するという点は、民間にも協力いただいています。市でももう少し用意できるとよいのではないかと考えています。
委員	行政との協働の構図はいかがですか。課題解決のための構図もできていますか。
観光課	ごんの秋まつりは実行委員会形式で、参加団体がそれぞれイベントを行い、警備やシャトルバス運行などハード面は行政が役割をもって対応するといった関係の協働となっています。 イベントについては参加団体が入れ替わりながら増えてきましたが、彼岸花の管理については仲間が増えるといった状況にはなく、課題の議論はしているものの、良案につながっていない状況です。
委員	ごんの秋まつりに参加する団体が当初の 10 団体から 30 団体ほどまで増えたことは評価しています。一方、参加団体の高齢化と参加団体の入れ替わりにより、当初の「魂」的なもの、新美南吉のふるさとをどう守っていくのかという思いの継承を課題として持っており、参加団体に対しては、目的や考えなどを、勉強会を通じて共有しながら、思いをつなげていけるように努めています。
委員長	実行委員会など関係者の中で「南吉のふるさとが、もっとこうあったらいいのにな」という、未来を

	描く、思いを出し合うような機会があると良いと思います。今をどうするか、課題にどう対応するかだけだと、活動者は辛くなってしまいます。
観光課	市民活動全般に言えることですが、高齢化問題を解決し、活動が活性化したような事例などがあれば、教えてください。
委員長	高齢化、活動の継承ということについて考える時の落とし穴は、今行っている活動をいかに続けるかという視点だけで考えることです。それをやると、世代交代はほぼ行われません。今行っていることは大事だが、続けていくことだけを考えるのではなく、今やっている内容も含めてどう未来への展望を描いていけるかだと思います。
委員	この取組は、他の市町村から見るととても良い事例として見られていると思います。 地域が地域資源を活かして、関係する団体が増え、様々なつながりが生まれ地域を盛り上げる、十数年にわたって築き上げられたその先に、市としてのビジョンを考えておく必要があるのではないのでしょうか。
委員	話を聞いて驚いたこと、知らないことがたくさんありました。 岩滑地区が中心に関わっている取組かと思いますが、彼岸花の環境整備を含むイベントの準備をイベント参加とセットにして、市全体で、みんなで一緒に取り組めるようになると、彼岸花に係る部分ももう少しカバーできるかと思いました。
委員	ごんの秋まつり本来の目的が薄れてしまっているのではないかとこのところ、協働という視点では、参加団体が目的を理解して活動してくれるのか確認しあってみてはいかがでしょうか。
委員長	他にご意見はありませんか。 ごんの秋まつり運営業務の協働事業評価を終了いたします。竹内課長、ご出席いただきありがとうございました。
1. 議題 協働事業評価について ②「ふくし井戸端会議」：地域福祉課	
地域福祉課	(「ふくし井戸端会議」に関する説明)
委員	アウトリーチを行って市民の話や意見を聞くという姿勢は良いと思います。自身もサロンに近い活動を行っていますが、小さな問題でも話があれば、その場で何かしらのアプローチが可能です。 ふくし井戸端会議に参加したことがありますが、自分の世代では開催時間帯が勤務時間中という方も多く、参加者の固定化という問題につながる要因でもあります。 ふくし井戸端会議に参加はしていないが困っている方は多いと思っており、地域サロンのように参加者が選ぶことができ、気軽に出かけられ、声を拾える場がたくさんあるというのは大事だと思います。

	います。
委員	ふくし井戸端会議は 10 年以上の歴史がありますが、対象となる方は後期高齢者と呼ばれる世代ですか。それとも、地域福祉を推進するという意味で多世代が対象ですか。
地域福祉課	多世代の方が対象です。
委員	見聞きする中では、高齢者向けの事業と受けとめられているように思いますがいかがですか。ふくし井戸端会議でいろいろな意見を聞き、取り上げることは良い事ですが、「ふくし」という言葉がつくことで、何となく若者、子育て世代が敬遠し、高齢者向けと受けとめられているのではないのでしょうか。
地域福祉課	「ふくし」イコール高齢者という感覚は一般的にもあると思いますので、否定できない部分はあります。実際には、障がい者や子育て世代の悩みも相談していただくことができます。
委員	これまでのふくし井戸端会議に障がい者や子育て世代の方がある程度参加していたという実感はありますか。
地域福祉課	そのような実感はありません。ふくし井戸端会議の課題として、こちらから声掛けをして区長や民生委員・児童委員に参加していただく形になっているため、参加者が固定化され、その方たちと繋がりのある方にとっては良かったかもしれないが、そうでなければ悩みの解決につながる糸口にはなっていなかったと思います。 新型コロナウイルスの感染拡大により、従来のように地域の皆さんに集まっていただくことができなくなり、参加者の固定化などの課題を解消するため、このタイミングでサロンなどに出向く方法に変更しました。 他にも、半田中学校区の取組として、障がい者と健常者が一緒に交流し、誰もが暮らしやすいまちにするために、「ぶらりまちあるき」を行っています。
委員	地元事業所が福祉分野に入りづらいという声を耳にします。 一方で、初めてでも福祉のイベントに参加して話ができたと喜ぶ現場の声も聞いています。高齢者の分野になってしまうかもしれませんが、福祉事業所や現場のケアマネージャーなどに声をかけることもふくし井戸端会議を続けるのには有効かもしれません。
委員	私もふくし井戸端会議に参加したことがあります。その時は、子育てをテーマにした回でしたので、地域でできることなどを共有させていただきました。最近では、コロナ禍もありましたが、本事業がいつ、どこで行われるかという情報が得られず、社会福祉協議会で聞いて知るような状況でした。 「ふくし」は特別なものではなく日常的なものであり、住んでいるみんなが考えるきっかけ、関わりがあるという意識をもつことが大切で、何かあった時に相談できる窓口を知っていることが重要で

	<p>あると思います。</p> <p>地域福祉計画におけるふくし井戸端会議の目標値は参加者数で、それなりの数字だったと思いますので、アウトリーチへの方針転換となると、どのように捉えていますか。</p>
地域福祉課	<p>計画を作成する段階では何をもって評価するかということがありますので、目標値を示すことは必要だと思えますが、地域福祉計画推進委員会の市民委員からは、実施した事業内容より、事業を実施して何がどう変化したのか、どんな成果があったのか、ということが重要だという意見をいただいています。</p> <p>今後も、地域住民のニーズや生活課題などを把握する活動は継続していきますが、令和8年度からの第3期地域福祉計画では、「ふくし井戸端会議」という名称を無くしてもいいと考えています。福祉を取り巻く状況の変化とともに事業のあり方も変化し、半田市の福祉はどのように変わったのかをしっかりと説明し、理解を得ていかなければいけないと思っています。</p>
委員長	<p>気になる点を1つ確認します。</p> <p>アウトリーチという言葉がでてきていますが、これは行政が課題を掘り起こしたいという意味でこの言葉を使っていると思えますが、井戸端会議は行政がニーズを掘り起こすためだけではないと思えます。協働事業シートにもポイントとして「地域住民主体の交流の場」とあります。このときの行政の役割は、社協の役割は、といった点が気になります。</p>
委員	<p>総合計画を作成したのと同時期に地域福祉計画を作成していますが、地域の課題を地域の方が主体的に考え、解決するという柱の中で、ふくし井戸端会議という事業が組み立てられました。当初、何もなしでは始められないだろうという事で、行政、社協から議題を提供するが、理想は地域でみなさんが課題と知っていることに関して自主的に話し合ってもらい、課題解決のアドバイスや伴走を行政、社協が担うということでスタートさせていると思えます。このため、ふくし井戸端会議を行うにあたってテーマを提供することは、そろそろ止めませんかというのが私からの提案になります。地域が話し合っていることを横でそっと聞いていて、こんな課題があるのかと聞いてくる機会を増やすというためのアウトリーチであれば、これからのあるべき姿だと思います。</p> <p>一方で、介護保険事業で別の課が会議体を設けていますが、別の会議で似たような話をしていますので、行政は縦割りになりがちですが役割分担を整理されると良いと思えます。</p>
委員	<p>地域でのふれあいサロンや福祉事業所の増加にともない、話ができる場所、聞ける場所が増え、地域の要望や課題を吸い上げることが出来てきたことは事実です。各地域の課題を集約し、どのように解決していくのか、地域で話し合う場として、ふくし井戸端会議は今後も必要なのではないでしょうか。</p>
地域福祉課	<p>現在、中学校区単位で福祉事業所主体の会議や生活支援協議会など、多様な関係者が参加する会議が開かれており、地域課題について話題になります。各中学校区の活動内容</p>

	の情報共有や会議のサポートをしっかりと行い、新しい取組などが必要であれば検討、展開するということにつなげていきたいと思います。
委員長	ふくし井戸端会議での司会進行役は誰が担っていますか。
地域福祉課	多くは社協が担っています。
委員長	行政主導になってしまうので、地域福祉課の方は司会進行役を担当しない方が良いと思います。
委員	これまでの話を聞いていると、学校運営協議会と共通する話であると感じました。会議体は沢山あるにも関わらず、そこで話し合われた内容が地域の方に伝わっていないという点で、情報の発信の仕方も工夫してみたいと思います。興味がある方でも、その会議体に入っていこうと思うと、よほどでなければ難しいだろうと思いますが、それでも、知ってもらいたい情報、知りたい情報はありますので、例えば、SNSやデジタル上の掲示板の活用など、会議の情報開示の仕方に工夫が必要ではないでしょうか。
委員長	古典的ですが紙媒体で、例えばバス停などで待ち時間に見てもらえるように情報を掲示する方が伝わる可能性が高いかもしれません。
委員	情報発信については、地域福祉課と社協での検討課題とし、会議体については整理できるものがあれば整理していただくと、より情報共有がしやすくなるのではないかと思います。
委員長	他にご意見はありませんか。 ふくし井戸端会議の協働事業評価を終了します。地域福祉課のお三方、ご出席いただきありがとうございました。
1. 議題 (1) 協働事業評価について ③「大学地域連携スポーツ推進事業」 スポーツ課	
スポーツ課	(「大学地域連携スポーツ推進事業」に関する説明)
委員	スポーツ推進に係る課題をどう捉えていますか。
スポーツ課	端的に言うと人、お金、場所の3つです。 人については、スポーツクラブの運営をする人や競技種目の指導者の確保、お金については、スポーツクラブや競技団体の運営資金の確保、場所については、学校体育施設等の開放をしているものの必ずしもスポーツクラブの希望に沿っているものではないといった点、これらが課題であると考えています。
委員	本事業で日本福祉大学と協働し、課題にアプローチしていくことになると思いますが、ゴールのビジョンを教えてください。
スポーツ課	本事業は、地域スポーツクラブの安定的な運営の実現に向けた運営サポートと、学生指導者

	<p>の派遣の2つを柱としています。指導者派遣は、大学生指導者が子ども達と年齢が近く、各スポーツクラブから概ね好評であったことから継続して拡大していく方針です。一方、運営サポートについてはスポーツクラブの考え方や地域性を考慮し、無理をせず、時間をかけながら、サポートを進めていく方針です。</p> <p>他方では、中学校の部活動改革の話が進んでおり、その事業ともうまく連携しながら進めていきます。</p>
委員	<p>スポーツクラブの安定的な運営というゴールを見据えながら、中学校の部活動改革に話が絡むようであれば、スポーツ課と日本福祉大学だけの協働では足りないと思いますがいかがですか。</p>
スポーツ課	<p>すでに、スポーツ課、学校教育課、生涯学習課の3課で連携を図っています。</p> <p>スポーツクラブでもスポーツ活動だけではなく、文化系の活動も行われているところもあります。また、中学校の部活動には文化系の活動もありますので、スポーツ以外の受け皿や指導者の確保にも努めています。</p>
委員	<p>この事業のスポーツクラブ側の受け止めと反応はいかがですか</p>
スポーツ課	<p>市とスポーツクラブとはこれまでも連携しており、日本福祉大学がスポーツクラブ側をサポートするという構図です。スポーツクラブの活動の内容により、事業に対する考え方の温度差はありますが、ウィークポイントを日本福祉大学にサポートしてもらいながら、自主財源で自走できる運営体制になるようサポートを受けられることから、概ね好評をいただいています。市としては、子どもたちがどの地域に住んでいても好きな種目で活動できるように、中学校の部活動改革ともうまく連動していきたいという考えです。</p>
委員長	<p>大学の立場で発言すると、学生たちが現場の指導者経験を積むことは、広く学びを与えてもらえるものであり、ありがたいことです。</p> <p>ただ、スポーツクラブが地域で自走していくためには、地域の中で指導者をどう養成していくのが大事ではないかと思います。地域の指導者になりえる、例えば実業団経験者などに対して指導者養成するための指導は行われていますか。</p>
スポーツ課	<p>今回の日本福祉大学との連携事業の中には含まれておりませんが、別で各スポーツクラブやスポーツ協会を通じて指導者の募集や中学生の受け入れができるかどうかを探して、調整しています。</p> <p>なお、中学校の部活動改革で、令和6年9月以降の土、日、祝日の活動は地域での活動となるため、中学生を受け入れてもらえるスポーツクラブに対して、新たな補助事業を検討しています。</p>
委員	<p>大学生を指導者として活用するという考え方は良いと思いますが、学生が卒業したら指導者がいなくなっていまい、子どもたちの活動が継続できなくなってしまう。委員長の発言のとおり</p>

	り、地域でも指導者を発掘したり、育成したりすることが必要になると思います。
スポーツ課	委託事業の中で大学が指導者となる学生を毎年募ることで、人の入れ替わりはありますが、指導者が途切れるといったことが無いようにしていきたいと考えています。
委員長	この事業は大学と市の包括連携の中で実施しておりますが、大学の連携先は半田市だけではありません。この事業では、半田市は他の市町より一歩進んだ動きをしていますが、他の市町からも同様の内容を求められたときに、大学が全ての市町に応じられるかと言えば応じられない事も出てきます。大学は地域全体の責任までは負えませんので、学生に来てもらうという視点だけではなく、中期的には地域指導者の育成、確保の両方を考えなければいけないと思います。
委員	学生指導者の指導期間はどのような形で運用されるのでしょうか。
スポーツ課	本事業は、包括連携協定の中で当面の間続けていきたいと考えておりますので、指導者登録した学生には卒業まで担ってもらい、また、毎年新しい指導者の募集も行っていきたいと考えています。
委員	スポーツ科学部が対象となっておりますが、カリキュラムに入る形か、それともアルバイトの斡旋のような形になるのでしょうか。カリキュラム外だとするならば、学生の募集が大学の負担につながり、尻すぼみになる危険性があるように感じます。
スポーツ課	カリキュラムに入っているかは分かりませんが、確認の必要性は感じました。事業を始める際に、学生が応募してくれるのか、市、大学ともに心配ではありましたが、令和 3 年度に試行した際には、ある程度の応募があったこともあり、令和 4 年度の実施につながっています。
委員長	現在はスポーツ科学部への委託事業ですので、アルバイトの斡旋ではなく、スポーツ科学部が受託者として責任をもって学生指導者を集めるという格好です。市からの委託を請けた大学が、委託料の中から学生指導者に対して活動謝金を支払う形になります。
委員	この事業の対象は中学校区 5 地区のスポーツクラブで、公平に運用されるということでしょうか。
スポーツ課	はい。5 地区のスポーツクラブが対象ですが、ソシオ成岩スポーツクラブは必要が無いと辞退の申し出がありましたので、4 地区が対象になっています。
委員	スポーツクラブの運営力の面で人が少ないとアイデアも出にくい、お金も無いといった声を聞いたことがありますので、そこをサポートしてもらえらる事業であれば、ぜひ進めていただきたいと思ます。
委員長	実業団との日常的な連携も、今後検討いただけるといいと思います。他にご意見はありませんか。

	大学地域連携スポーツ推進事業の協働事業評価を終了いたします。スポーツ課のお二方、ご出席いただきありがとうございました。
1. 議題	(1) 協働事業評価について ④「外国籍市民のための防災事業」市民協働課、防災安全課
市民協働課	(「外国籍市民のための防災事業」に関する説明)
防災安全課	(同 補足説明)
委員	半田地区以外にも外国籍市民は増加しているが、言葉の壁を越えたつながりを持つきっかけとなっているのではないのでしょうか。また、避難所運営という点で、この事業は他の地区へ横展開を図ってほしいものです。
市民協働課	たまたま避難所運営が題材となっていますが、地域の外国籍市民との交流やつながり作りのメインとしては、市民協働課が別事業として行っているものになります。 この事例では、協働相手に半田中学校避難所運営委員会を取り上げておりますが、避難所運営に地域の方が自主的に多文化という視点を取り入れて、参加者みんなで考え活動していることがポイントです。今後、情報発信に力を入れることで、委員の言われる横展開や機会の創出につながるものと思います。
委員長	避難所訓練に参加した、ある区長さんから聞いた話をお伝えします。 今までは、外国籍市民の避難者には、支援しないといけないとかお手伝いしないといけない存在だと考えていたが、一緒に避難訓練をすることで、共に運営をしていく、まちづくりをしていく仲間であるという考えに変わった、とのことでした。 半田中学校区以外にも、このような活動が横展開されるような動きはありますか。
市民協働課	半田中学校から派生して、雁宿小学校で避難所運営委員会が立ち上がり、同様な活動ができないかを模索しており、横展開される可能性は高いと思います。また、青山地区でも昨年行われた市の総合防災訓練を起点にして、避難所運営の枠組みを作っていく取組が始まっていますので、今後、多文化の視点による動きは期待できると思います。ただし、令和5年度中にいずれも実施されるという確証はありません。
委員長	県が市町村向けに防災講座を行うように、市は養成講座を行っていますか。
防災安全課	自治区や自主防災会等を対象に出前で防災講座を実施しており、ハザードマップの解説や住民一人ひとりの防災行動計画（マイ・タイムライン）の作成等から住民個々の防災力向上に繋がっています。
委員長	そういう場に外国籍市民が入っていくと展開が広がっていく気がします。

委員	<p>とてもいいと思った点がいくつかあって、協働する団体の役割がしっかりしている、交流してお互いを知る・つながるといった視点もある、いろいろなコーディネートが行われている、外国籍市民のためだけでなく広く市民のためでもあり、お互いに理解するという考えがしっかり含まれているいい取組だと思います。</p> <p>協働の取組を推し進めていくうえで何が重要かという目線で見るときに、必要な要素がたくさん含まれているものだと感じました。</p>
委員長	<p>市民協働課は県の多文化共生推進室に、防災安全課も県の防災所管課に是非ともしっかりPRして欲しい取組です。特に、多文化共生推進室には半田市としてしっかり取り組んでいる事例としてPRしてもらいたいと思います。他にも県内で多文化共生での先進事例をもつ市町村、豊田市の保美地区の方などと情報交換や連携がとれると、次の展開がみられるかもしれません。</p> <p>社協の関わりはいかがですか。</p>
委員	<p>社協が直接的に関与することはありませんが、地域にとってみれば、外国籍市民を受け入れたこともいい意味で「なんとかなる」「まず、やってみよう」という良い事例になったと思います。やらずに諦めるのではなく、やってみて、ダメなら次はどういう風にしたらいだろうかという発想で取り組むことが必要、ということの学びになったのではないかと思いますし、この事業の良さにつながっているのではないのでしょうか。</p>
市民協働課	<p>協働相手に名前は挙げておりませんが、社協も避難所運営という部分ではいろいろなところで関わっていただいています。関わった社協の職員もこの取組を通じて様々なことを感じ、必要な取組だということを理解してくれていると思いますし、そのことが、横展開される時に大きな力になると考えています。</p>
委員	<p>協働相手にあるマンゴーベレン・プロジェクトは、市内在住の外国籍市民を束ねる団体ですか。また、団体、外国籍の方とつながりたい場合はどのようにしたらよいですか。</p>
市民協働課	<p>全市的にポルトガル語を主とするブラジル国籍の方の生活相談や支援等を行っている団体で、ブラジル国籍の市民が社会生活に困らないよう支援活動を行っておりますが、市内の外国籍市民を束ねるような団体ではありません。</p> <p>団体とつながりたい、相談があるといった場合、まずは市民協働課市民協働担当にご一報ください。</p>
委員	<p>マンゴーベレン・プロジェクトは、今後も毎年このような事業を展開していく予定でしょうか。</p>
市民協働課	<p>令和3、4年度は市民活動助成金を活用して事業を展開してきましたが、5年度での活用は予定していません。しかし、半田中学校避難所運営委員会との連携は続いておりますので、このスキームを維持しながら横展開が図れるよう行政がサポートできればと考えています。</p>

委員	現在はマンゴーベレン・プロジェクトがこの事業に関わることで、ブラジル国籍の市民には情報が伝わりやすい状況にありますが、他の国籍の市民にも情報が伝わるような形になっていけばよりよい形になると思います。
市民協働課	市民協働課が対応する自治区の区長と防災安全課が対応する自主防災組織の長はほぼイコールという事もありますので、その方々にも協力いただけるような情報発信を検討していきます。
委員長	Handa Komaran (SNS) による、やさしい日本語や多言語での情報発信も活用していただければと思います。 他にご意見はありませんか。 外国籍市民のための防災事業の協働事業評価を終了いたします。 市民協働課長、防災安全課のお二方、ご出席いただきありがとうございました。
委員長	本日取り上げました4つの事業はそれぞれ協働の形が異なるもので、協働と言っても様々なタイプがあるところを、押さえていただければと思います。
1. 議題	(2) 協働事業GP (グッドプラクティス) の選定について
事務局	(選定に関する説明)
委員長	グッドプラクティスに選定した事業は庁内外に広く公表していきます。前回評価いただきました1事業を含め5事業から協働の視点でグッドプラクティスを推薦いただきます。複数事業を選定することも可能ですので、ご発言をお願いします。
委員	「外国籍市民のための防災事業」を推薦します。 行政も含め、各団体がしっかりと関係性を築きながら協働できている点は、今後の展開に期待もできるという思いです。
委員	「外国籍市民のための防災事業」を推薦します。 いろいろな団体が関わり行われている事業で、広く市民に参加してもらったり、知ってもらいたい有意義な事業であると思います。他の事業は、事業の在り方や意義、継続するための課題認識など、相互理解がもう一步あればという感想です。
委員	「外国籍市民のための防災事業」と、「ふくし井戸端会議」の2つを推薦します。 防災事業については先に発言したとおりですが、ふくし井戸端会議については、ずっと同じことを続けていなくてもいい、その時代や状況によってやり方やあり方を変えていってもいいというところも含めて、広く知ってもらうことはいいと思います。
委員	「外国籍市民のための防災事業」を推薦します。 行政のサポートと団体の活動のバランスや距離感がとても良い具合だと思います。

委員	「ごんの秋まつり運営業務」を推薦します。 半田ならではの事業で歴史もあります。課題があるところも含め、協働で行われているところで広く知ってもらうことは良いと思います。
委員	「外国籍市民のための防災事業」を推薦します。 今の状況をグッドと言えるかという視点で考え、防災事業を選びました。他の事業については、もう一つ次につながるステップがあるとグッドになるのかなと思います。
委員長	一委員としての発言となりますが、「外国籍市民のための防災事業」と、「ふくし井戸端会議」の2つを推薦します。 ふくし井戸端会議は歴史と積み重ねがあって、いろいろな立場の方々に関わり方の強弱はあれ参加し、協働してきており、かつ色々ないきさつの中でダイナミックに変化している点も含め推薦します。
委員	「外国籍市民のための防災事業」を推薦します。 半田市の人口構成を考えたとき、外国籍市民は少しずつ増えている傾向にあり、地域の側も外国籍市民を受け入れるということを考えたときに、一つの参考となる良い事例だと思います。
委員長	単純に多数決でいけば「外国籍市民のための防災事業」をグッドプラクティスに挙げるということになります。
委員	今回の選定を公表していくにあたって、どのような形を考えていますか。
事務局	評価した5事業については、委員のみなさまからの助言、提言を含めて公表していきます。また、グッドプラクティスとして選定された事業は、複数年積み上げたうえで事例集のような形で公表していこうと考えています。
委員	今回選定された5事業の協働相手は、この委員会でどう評価され、今後どうより良い方向へ進めていけば良いかのアドバイスにとっても興味をもっていると思います。5事業の評価全てを公表しながら、グッドプラクティスの評価を受けた事業という風にアナウンスしていけば良いと思います。
事務局	今後の公表の仕方は、事務局で検討させていただきます。
委員長	公表の仕方は、前回作成の事例集に掲載がなく、この委員会で取り上げられた事業を追加するというやり方でも、一旦リセットして、本委員会で取り上げた事業をもって新しい事例集を取りまとめ、その中でグッドプラクティスとして紹介する形でも良いと思います。 方法は、事務局に委ねたいと思います。 次回までに、グッドプラクティスに選ばれたことをどんな風に公表していくのか、事務局には案を出していただきたいと思います。
2. その他	(1) 今後のスケジュールについて

事務局	(資料に基づき説明)
委員長	次第にあります議題が全て終了しましたので、これにて終了とさせていただきます。 ありがとうございました。